

2025年11月7日

上場会社名 株式会社 ウッドワン

上場取引所 東

コード番号 7898 URL <https://www.woodone.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中本 祐昌

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長

(氏名) 野口 貴博

TEL 0829-32-3333

半期報告書提出予定日 2025年11月13日

配当支払開始予定日

2025年12月8日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期 (中間期) の連結業績 (2025年4月1日～2025年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年中間増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	31,533	△0.9	287	0.9	670	122.5	766	374.6
2025年3月期中間期	31,826	△1.9	284	—	301	—	161	—

(注) 包括利益 2026年3月期中間期 832百万円 (△43.3%) 2025年3月期中間期 1,468百万円 (△17.5%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	82.38	—
2025年3月期中間期	17.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	102,897	46,322	44.0
2025年3月期	102,106	45,614	43.7

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 45,315百万円 2025年3月期 44,636百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	12.00	—	12.00	24.00
2026年3月期	—	12.00			
2026年3月期 (予想)			—	12.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	66,000	1.3	1,100	△16.1	1,200	123.4	1,000	△43.7	107.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正につきましては、本日 (2025年11月7日) 公表しました「営業外収益、特別利益の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 - ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期中間期	9,841,969 株	2025年3月期	9,841,969 株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	533,160 株	2025年3月期	533,025 株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2026年3月期中間期	9,308,866 株	2025年3月期中間期	9,309,281 株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(追加情報)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業の堅調な設備投資や高水準のインバウンド需要に支えられ、緩やかな回復基調を維持しました。しかし、物価の継続的な上昇が家計を圧迫し、個人消費は依然として力強さを欠いています。海外経済では、米国の通商政策や中国の景気減速に加え、サプライチェーンの混乱リスクも残っており、依然として先行きは不透明です。今後の事業環境は、国内消費と海外リスクの双方を注視する必要があります。引き続き予断を許さない状況です。

住宅業界においては、2025年4月に施行された改正建築基準法の影響や昨今の住宅価格の高騰を受け、当社グループの主力販売市場である日本国内の持家と分譲戸建住宅を合わせた着工戸数が、前年を大きく下回る水準で推移しています。

このような事業環境の中、当社グループは山林経営から木材加工までの一貫生産体制と循環型林業による環境貢献など、当社独自の価値提供に注力しています。主力の国内新築市場においては、高い品質と安定供給力を維持し、無垢商品や収納商品、省施工商品といった高付加価値商品を核とした提案を行うことにより、お客様の信頼に応え続けています。また、脱「新築戸建依存」に向け、国内のリフォーム・非住宅市場においては、設計の自由度と空間の付加価値を高める多様な商品ラインナップを提案しています。海外市場においては、インドネシア子会社による同国内や欧米・豪州等のさらなる開拓を進めています。

サステナビリティ活動の一環としては、2025年9月、当社グループが目指すサステナビリティの方向性、関連する主な取り組みをステークホルダーの方々にお伝えするための年次レポート「ウッドワン サステナビリティレポート 2025」を公開しました。今回のレポートでは、気候変動に対する当社の取り組みや社会貢献活動として one's art プロジェクト、国内グループ子会社フォレストワンの庄原工場の見学会開催等、当社のマテリアリティ(重要課題)に対する考え方や対応事例を記載し、さまざまなステークホルダーの方々とコミュニケーションを図ることを目指しています。

国内販売については、「木と人で拓く、新たな価値!」をテーマに、お客様にとって付加価値のある商品の拡販に取り組み、取引店数のさらなる拡大を進めています。また、度重なる資材調達コストの上昇に対応して、生産性向上によるコストダウンやサプライチェーンの強化に加え、適正な収益確保を行うべく床材・造作材等の販売価格の改定に継続的に取り組んでいます。

海外部門については、ニュージーランド子会社では、当社グループ向けの生産数量を確保した上で、原木や木質素材などをニュージーランド国内市場などへ販売しました。また、インドネシア子会社では、欧米市場やインドネシア国内市場の販路開拓を続け、拡販を進めました。

こうした状況の中、日本国内での販売価格の改定による売上面・利益面での効果はあったものの、国内外の住宅需要の低下や物価高の進行によるコスト高が続き、前年同期に比べ売上高や利益面で低調に推移しました。

この結果、当中間連結会計期間の連結売上高は、31,533百万円(前年同期比0.9%減)、営業利益は287百万円(同0.9%増)、経常利益は670百万円(同122.5%増)となり、親会社株主に帰属する中間純利益は766百万円(同374.6%増)となりました。なお、経常利益には、ニュージーランド子会社の排出権収入として647百万円、特別利益には、同子会社で発生した火災による保険金等が受取保険金として387百万円含まれています。

セグメント別の業績は次のとおりです。

①住宅建材設備事業

住宅建材設備事業では、2025年7月、木の質感を活かした家具のような雰囲気も魅力の「無垢の木キッチンスイージー」のラインナップを拡充し、国産材針葉樹・桧(ヒノキ)の扉を追加しました。まるで森林浴のようなリラックスした桧の空間を演出し、国産材桧を日常の暮らしに取り入れる事で日本の森林保全にも繋がります。また、同9月、無垢の針葉樹「ニュージープライン®」を生かした住宅等の内装建材シリーズ「ピノアース」に、新たに「ピノアース2025」を追加。美しい木目を最大限に引き出す「ナチュラル色」「ウォームベージュ色」「アイボリー色」の3色展開と、「シンプル」「ミニマル」な空間イメージにぴったりの4つのデザインを展開しています。同9月には、多くのユーザーから支持されるリンナイ株式会社様のガス衣類乾燥機「乾太くん」推奨の衣類乾燥機専用台「ランドリーノ」を発売。システム収納「エラボ」や「仕上げてる棚板」などと組み合わせた、ランドリールームや脱衣室の収納がますます充実しました。

リフォーム市場向けでは、同9月、東京ビッグサイトで開催された日本最大のプロ向けリフォーム展示会「リフォーム産業フェア2025」に出展し、無垢の木キッチン「スイージー」や無垢の木の内窓「MOKUサッシ」等を新規顧客に提案しました。

非住宅市場向けでは、同7月、「非住宅木造建築オンラインセミナー」を開催し、「JWOOD工法」の特徴を活かした倉庫・工場等の非住宅木造建築実例を紹介しました。さらに、同9月、当社初となる木造4階建てアパートの現場構造見学会を開催。新聞等でも大きく取り上げられ、全国各地から来場頂いた施工業者にLVL材や「JWOOD工法」の特長、構造設計のポイント等を説明・提案しました。

海外部門については、ニュージーランド子会社では、日本国内の住宅需要の低下により当社グループ向けの生産数量が減少し、ニュージーランド国内市場や海外市場に向けた原木や木質素材の外販数量も減少したことなどにより、売上高は前年同期を下回る水準となりました。

また、インドネシア子会社では、インドネシア国内向けの販売、および欧米市場への輸出が引き続き大きく増加し、前年同期に比べ売上高、利益ともに好調に推移しました。

この結果、当中間連結会計期間における住宅建材設備事業の売上高は31,035百万円(前年同期比0.9%減)、営業利益は201百万円(同22.2%減)となりました。

②発電事業

発電事業では、本社敷地内に設置している木質バイオマス発電設備で発電した再エネ電気を、電気事業者へFIT固定価格で全量売電しています。バイオマス燃料の需要が増え続ける中、依然、燃料代は高止まりしましたが、製造経費が大きく減少したことから、営業利益が前年同期を上回る水準となりました。

この結果、当中間連結会計期間における発電事業の売上高は521百万円(前年同期比1.0%減)、営業利益は85百万円(同233.1%増)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における連結財政状態は、為替の影響もあり、前連結会計年度末に比べ資産が790百万円増加、負債が82百万円増加、純資産が707百万円増加しました。

資産790百万円の増加は、流動資産が596百万円増加、固定資産が193百万円増加したことによるものです。流動資産596百万円の増加は、現金及び預金が2,082百万円減少したものの、その他流動資産が1,222百万円増加、受取手形、売掛金及び契約資産が637百万円増加、棚卸資産が814百万円増加したことによるものです。また、固定資産193百万円の増加は、主にニュージーランド子会社の事業再編に伴う同社ギスボン工場資産の売却に関連して発生した債権等をその他流動資産へ振り替えたことにより、投資その他の資産が715百万円減少したものの、主にニュージーランド子会社の立木等の増加により有形固定資産が946百万円増加したことによるものです。

負債82百万円の増加は、流動負債が836百万円増加、固定負債が753百万円減少したことによるものです。流動負債836百万円の増加は、主に長期借入金の一部が1年内返済予定となり短期借入金へ切り替わったことや、海外子会社の短期借入金が増加したことなどによるものです。

純資産707百万円の増加は、主に利益剰余金が655百万円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年5月9日に公表した業績予想を修正しております。詳細は、本日(2025年11月7日)公表しました「営業外収益、特別利益の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,440	3,357
受取手形、売掛金及び契約資産	8,050	8,687
商品及び製品	5,577	5,535
仕掛品	2,130	2,352
原材料及び貯蔵品	7,097	7,731
その他	1,222	2,444
貸倒引当金	△64	△59
流動資産合計	29,453	30,050
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,220	8,784
機械装置及び運搬具(純額)	4,401	4,265
土地	17,295	16,909
立木	22,019	22,808
その他(純額)	5,700	6,815
有形固定資産合計	58,637	59,583
無形固定資産	649	611
投資その他の資産	13,366	12,651
固定資産合計	72,653	72,846
資産合計	102,106	102,897
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,741	4,360
電子記録債務	2,665	2,303
短期借入金	19,545	20,838
未払法人税等	587	238
契約負債	349	341
引当金	1,171	818
その他	3,051	3,046
流動負債合計	31,111	31,948
固定負債		
社債	2,000	2,000
長期借入金	18,384	17,383
繰延税金負債	548	695
引当金	426	432
退職給付に係る負債	659	702
その他	3,361	3,413
固定負債合計	25,380	24,626
負債合計	56,492	56,574

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,324	7,324
資本剰余金	7,519	7,519
利益剰余金	22,619	23,274
自己株式	△2,053	△2,053
株主資本合計	35,410	36,065
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,613	1,913
繰延ヘッジ損益	△6	—
為替換算調整勘定	7,339	7,094
退職給付に係る調整累計額	278	241
その他の包括利益累計額合計	9,225	9,249
新株予約権	71	59
非支配株主持分	906	947
純資産合計	45,614	46,322
負債純資産合計	102,106	102,897

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	31,826	31,533
売上原価	23,480	23,182
売上総利益	8,346	8,350
販売費及び一般管理費	8,061	8,063
営業利益	284	287
営業外収益		
受取利息	8	19
受取配当金	52	59
受取賃貸料	109	81
為替差益	20	12
排出権収入	—	647
補助金収入	330	50
その他	92	51
営業外収益合計	613	922
営業外費用		
支払利息	307	263
売上割引	176	172
その他	113	103
営業外費用合計	596	539
経常利益	301	670
特別利益		
固定資産売却益	3	5
受取保険金	—	387
新株予約権戻入益	30	18
その他	0	—
特別利益合計	33	410
特別損失		
固定資産売却損	1	0
固定資産除却損	4	6
子会社清算損	45	6
事業再編損	75	2
特別損失合計	126	15
税金等調整前中間純利益	208	1,065
法人税、住民税及び事業税	133	265
法人税等調整額	△65	△29
法人税等合計	68	235
中間純利益	139	829
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	△22	62
親会社株主に帰属する中間純利益	161	766

(中間連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	139	829
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	756	299
繰延ヘッジ損益	0	7
為替換算調整勘定	594	△267
退職給付に係る調整額	△21	△37
その他の包括利益合計	1,329	2
中間包括利益	1,468	832
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,453	791
非支配株主に係る中間包括利益	15	41

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

中華人民共和国の連結子会社の清算

当社の厨房機器部品を製造していた連結子会社である上海倍楽厨業有限公司は、清算手続きを進めております。